

学院福音化2022年11月 子ども伝道学校

10月29日のレムナントデイで語られたメッセージは、大事なメッセージですから聞いて黙想しましょう。

それについて、伝道学校では繰り返して説明をしません。

そのメッセージの中で、いまは終わりの日の最後の時が近づいている終末だと語られました。

ここでは、それについて、いっしょに聖書のみことばから見て黙想しましょう。

終わりの日（終末）、主の日、再臨（黙1:8）

黙示録1:8

神である主、今いまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」



イエス様がこの世が終わる日、主の日に再臨主として再び来られます。

その日は信じない者にはさばきの日ですが、信じる者には勝利と喜びの日になります。

その最後のときに起こる事について詳しく記録している聖書が、ヨハネの黙示録です。

しかし、多くの信徒と教会が、ヨハネの黙示録を難しい本として見ていて、

まるで聖書の付録のように思っています。ですから、黙示録についてのメッセージはあまりありません。

また、まだ来ていない遠い未来に起こる事を、なぞのようにまとめた本のように思っているようです。

しかし、ヨハネ黙示録はそんなに難しい本ではありません。難しく考えないでください。

ヨハネの黙示録は404節ありますが、その中のほとんど300節近い内容が、旧約聖書の内容を引用しています。

それ以外のところも、ほとんどヨハネの黙示録の中に説明しているので、なぞのように思わず、そのまま読んでください。

今日はイエス様の再臨される日、主の日、最後の日について、聖書箇所をいくつか黙想しましょう。

この最後のさばきの日についての約束は、福音とともに最初から与えられた約束です。

創世記3:8

そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。



「そよ風の吹くころ」とありますが、これは、すずしい風が吹くころということではありません。ヘブライ語を見ると「レルハフ ハヨム」ということばです。「ルハフ」は聖霊様、神様の霊のことです。「ハ」は英語で「the」（その）ということで、「ヨム」は「日」です。つまり、「聖霊の日」のことです。

罪を犯したアダムとエバに、聖霊の日に神様がたずねて来られたのです。なぜ来られたのでしょうか。さばくためです。それ以降の内容を見ると、蛇とアダム、エバにそれぞれ、さばきのみことばを与えられます。

最後の日に、イエス・キリストとともに聖霊が来られるということは、信じる者には祝福ですが、信じない者には、さばきとのろい日です。

出 12:29-30

29 真夜中になって、主はエジプトの地のすべての初子を、王座に着くパロの初子から、地下牢にいる捕虜の初子に至るまで、また、すべての家畜の初子をも打たれた。

30 それで、その夜、パロやその家臣および全エジプトが起き上がった。そして、エジプトには激しい泣き叫びが起こった。それは死人のない家がなかったからである。



ここで「真夜中」ことばがありますが、これが、さばきの日と言うのです。

「真夜中」=夜、というのは、为什么呢。ヨハネ 9章 4節で、イエス様が直接、言われました。

ヨハネ 9:4

4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。

この「夜」が、さばきの日を意味しています。

出エジプトは、いつ起きたことでしょうか。過越祭に起こったことです。このように、最後の日には、羊の血、イエス様の血の中にいる者は救われて、イエス様の血の外にいる者はすべて地獄の火に投げこまれる、さばきを受けるようになるのです。

マラキ 4:1-3

1 見よ。その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行なう者は、わらとなる。来ようとしているその日は、彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。——万軍の主は仰せられる——

2 しかし、わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、いやしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のようにはね回る。

3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。彼らは、わたしが事を行なう日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ。——万軍の主は仰せられる——

多くの人を知っているみことばです（特に2節）。しかし、このみことばは、病気の人々をいやしてあげるために読んであげる聖句ではありません。



「義の太陽が上り」（2節）とあります。太陽のような光が上るのですが、その光を受ける者の中で、ある人たちはその光に燃えて死んでしまうということです。それは、どういう人たちでしょうか。すべて高ぶる者、すべて悪を行なう者（1節）、神様がおられなくても生きることができる、神のようになって生きようとする人々です。

また、ある人々には、いやす光、生かす光になるのです。主の御名を恐れる人々です。

つまり、「私が善悪の知識の木の実を取って食べた禁断の実取って食べたアダムです」と告白する人です。

「私には、神様からのいやしの光が必要です。神様が生かしてくださらないければ、私は生きることができません」と告白する人々、その人々には、義の太陽の光は、いやす光であり、生かす光です。

「その光がなければ、生きることができません」と告白しましょう。



マタイ 3:11-12、最後の預言者であったバプテスマのヨハネのことばです。

11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方はきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。

12 手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

地獄の消えない火に投げ込まれて、焼き尽くされるということです。

地獄の消えない火は、どんな火でしょうか。

「聖霊の火」です。使徒 2 章に、聖霊の日に、聖霊が風のように炎のように来られました。

最初に見た創世記 3:8 では、風のような聖霊の日を意味していて、ここでは炎（火）のような聖霊の日を言っているのです。



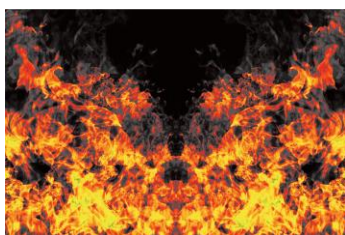
地獄は悪魔（サタン）が治めると思っている人々がいるかもしれませんが、しかし、悪魔（サタン）は地獄の燃料として、信じない人々といっしょに燃えるのです。燃えるのですが死ぬことはできません。

地獄の火は、聖霊の火です。信じる者が聖霊の火を受けると、あまりにも感激で感謝するのですが、信じないものが聖霊の火を受けると、苦しみのなかで燃えるのです。それを黙示録 20:9-10 から見てみましょう。

黙示録 20:9-10

9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。

10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。



ここに書かれているように、「悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた」つまり、いっしょに燃えてしまうのです。

私たちは、こわがる必要はありません。地獄とは関係がない、救われた神の子どもとなっているからです。

Ⅱテサロニケ 1:8-9

8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。

9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

永遠の滅びの刑罰は、主の御顔から退けられたということです。義の太陽の光から離れてしまったということです。その人々は、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

その人々は、どのような人たちでしょうか。

イエス様の福音を信じない人たちです。「神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々」(8)ということです。

では、「主イエスの福音」とは何でしょうか。もう一度、整理しましょう。



イエス様が十字架で「完了した」と言われました。

イエス様が十字架でみな成し遂げられたということ、それが福音です。

すべてをみな成し遂げられたイエス様の福音を信じない人々が、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。



宗教は何を言うのでしょうか。

続けて人間中心主義を追い求めて、人間の可能性とこの世に可能性のあることを証明しようとしします。

福音と宗教の大きな違いがそこにあります。

宗教は、人間がなにかを探し求めて行くことで、

福音は神様が、なにもできない人々に、たずねて来られたということです。

ですから、宗教は「人間はすばらしい。この世はすばらしい。人間には可能性がある。なんとかすればできる」と言います。それがサタンのしわざです。いま3団体（ニューエイジ、フリーメイソン、ユダヤ人）が言っているのが、それです。「人間が神なので、神様はいらない。神のようになったので、なんとかできる」と言っています。

教会でも、人間の可能性を話し続けるなら、それは福音でなく宗教です。

この地での私たちの人生は、しばらくのことだけで、目に見えるこの世は、すべて燃えてなくなります。

人間も、この世も、この体もなくなります。

私たちは、イエス様が十字架でみな成し遂げられた福音の前に伏して、降参、服従しましょう。

みことばに従って、そのみことばが私たちの人生において成就されますようにと祈りましょう。

それが、私たちがすることです。

そのような人たちに、まことの自由があります。



最後の日(さいごひ)がいつ来るかは、私(わたし)たちはわかりません。

1 テサロニ 5:1-6

- 1 兄弟(きょうだい)たち。それ(それ)らがいつ(いつ)なのか、また(また)どう(どう)いう(いう)時(とき)かについては、あなた(あなた)が(が)私(わたし)たちに書(か)いてもら(もら)う必要(ひつよう)がありません。
- 2 主(しゅ)の日(ひ)が夜(よ)中の盗(ぬす)人のよう(よう)に来(き)るとい(い)うこと(こと)は、あなた(あなた)が(が)自(じ)身(しん)がよ(よ)く承(しょう)知(ち)して(して)いるから(から)です。
- 3 人(ひと)々が「平和(へいわ)だ。安全(あんぜん)だ」とい(い)っているそのよう(よう)な時(とき)に、突(とつ)如(じょ)として滅(ほろ)びが彼(かれ)らに襲(おそ)いかかり(か)ります。ち(ち)ょうど妊(にん)婦(ぶ)に産(う)みの苦(くる)しみ(しみ)が臨(のぞ)むよう(よう)な物(もの)で、それ(それ)をの(の)がれること(こと)は決(けつ)して(して)でき(でき)ません。
- 4 しかし、兄(きょう)弟(だい)たち。あなた(あなた)が(が)私(わたし)たちは暗(くら)やみ(み)の中(なか)にはい(い)ないの(の)です(す)から、その日(ひ)が、盗(ぬす)人のよう(よう)にあなた(あなた)が(が)私(わたし)を襲(おそ)うこと(こと)はあり(あ)りません。
- 5 あなた(あなた)が(が)私(わたし)はみ(み)な、光(ひかり)の子(こ)ども、昼(ひる)の子(こ)どもだ(だ)から(か)らです。私(わたし)たちは、夜(よ)や暗(くら)やみ(み)の者(もの)ではあ(あ)りません。
- 6 ですから、ほ(ほ)かの人(ひと)々(々)のよう(よう)に眠(ね)って(て)い(い)ないで、目(め)をさ(さ)ま(ま)して、慎(つつし)み深(ふか)く(く)して(して)いま(いま)しょう。



このような再臨(さいりん)の最後(さいご)の日(ひ)についてのみことば(き)を聞(き)いて、おそれ(おそ)ている人(ひと)がいるか(か)もしれ(も)せんが、安(あん)心(しん)してくだ(くだ)さい。そのよう(よう)な人(ひと)は、自(じ)分(ぶん)がほん(ほん)とう(とう)にイ(イ)エス・キ(キ)リス(ス)トの福(ふく)音(いん)の中(なか)で、すべ(すべ)てが終(お)わ(わ)った人(じん)生(せい)な(な)か(か)を確(かく)認(にん)する時(じ)間(かん)に(に)しま(ま)しょう。神(かみ)様(さま)が与(あた)えら(れ)れた恵(めぐ)み(み)によ(よ)って確(かく)信(しん)して(して)いる人(ひと)々(々)も、安(あん)心(しん)しま(ま)しょう。すで(すで)に光(ひかり)の子(こ)ども、神(かみ)の子(こ)ども、昼(ひる)の子(こ)ども(も)です。

ですから、私(わたし)たちが(が)する(す)ること(こと)は、6節(せつ)にあ(あ)るよう(よう)に「目(め)をさ(さ)ま(ま)して、慎(つつし)み深(ふか)く(く)して(して)いま(いま)しょう」です。これ(これ)は、寝(ね)ないで(で)お(お)き(き)ま(ま)しょう、とい(い)うこと(こと)ではあ(あ)りません。

みことば(みことば)をも(も)って、い(い)つも主(しゅ)の恵(めぐ)み(み)と聖(せい)霊(れい)の満(み)た(た)し(し)を求(もと)め(め)祈(いの)ること(こと)です。

礼(れい)拝(はい)に勝(しょう)利(り)しま(ま)しょう。日(にち)曜(よう)の講(こう)壇(だん)や本(ほん)部(ぶ)のみことば(みことば)を聞(き)いて黙(もく)想(そう)して、祈(いの)り(り)ま(ま)しょう。

それ(それ)だけ(だけ)で十分(じゅうぶん)です。



最後に(さいご)結論(けつろん)です。

この歴(れき)史(し)の流(なが)れ(れ)の上(うへ)では、創(そう)世(せい)記(ぎ)の事(じ)件(けん)が先(さき)であ(あ)って、黙(もく)示(し)録(ろく)が最(さい)後(ご)です(す)が、霊(れい)的(てき)世(せい)界(かい)の中(なか)では黙(もく)示(し)録(ろく)が先(さき)です。

これ(これ)は、どう(どう)いう意(い)味(み)で(で)しょう(しょう)か。

神(かみ)様(さま)がエ(え)デ(デ)ンの園(えん)と人(にん)間(げん)をつ(つく)ら(ら)れたあ(あ)と、人(にん)間(げん)(アダム(アダム)とエバ(エバ))が善(ぜん)悪(あく)の知(ち)識(し)の木(き)の实(み)を取(と)って食(た)べて失(しっ)敗(ぱい)した(した)から、い(い)ろい(ろ)ろな方(ほう)法(ほう)をつ(つか)う計(けい)画(かく)を立(た)てて修(しゅう)正(せい)し(し)な(な)が(が)ら黙(もく)示(し)録(ろく)ま(ま)で至(いた)った(た)のでは(では)なく、最(さい)初(しよ)から黙(もく)示(し)録(ろく)21章(しょう)22章(しょう)の(の)新(あたら)しい天(てん)と新(あたら)しい地(ち)を目(め)的(てき)に(に)して、人(にん)間(げん)と宇(うち)宙(じゅう)万(ばん)物(ぶつ)をつ(つく)ら(ら)れた(た)のです。



神学的なことばで「終末が創造の前に立つ」という表現があります。

それで、はだかのアダムとエバを、どのように義の白い服を着た天国の民として導いてくださるのかを記録しているのが聖書です。それが、私たち自身の話です。

唯一の救い主であるイエス・キリストの十字架の恵みと、その十字架を通して確認して下さった神様の愛、その恵みと愛によって完成された新しい天と新しい地です。それが、すでに私たちに与えられています。未来のことですが、いま（現在）のことです。

したがって、私たちがこの聖書を読んで聞くと、この地でどのように生活をして生きて行くのかを心配したり、私の人生にどのように適用するのかと見るのではないということです。

この聖書を私の人生にどうやって適用して、私たちがどのようにこの世を生きるのかという観点で聖書を見るのではなく、神様がどのように「私という罪人」を救って下さったのか、今も、どのように救いを成し遂げておられるかを見つけないければなりません。

終末、すなわち、イエス様をキリストとして信じて告白する私たちには、

イエス様の再臨の日は、救いの完成の日です。

そして、神様の存在がそうであるように、救いは過去や未来ではなく、永遠の現在です。

ですから、終末は、はてしなく、私の中で起きていることです。



毎朝、目を覚ますと、生きている「私」という自我が死んで、

私の中にイエス・キリストだけが生きておられること、

そのような私を神の国として、御座を置いて座っておられるインマヌエルの神様の愛にとどまり、聖霊のいやしの光を受けて、私を通して、また他の人々が生かされることを祈る人生です。

それが、先に呼ばれてこの世を生きている私たちの現実にならなければなりません。

ですから、私たちは再臨の日、最後の日をいつも生きているということです。

これが393の祈りの答えであり祝福です。

11月の学院福音化の1課「イエス様の終わりの日に関する預言」については、

まず、マタイ24章を読んでください。長くて、難しいのですが、聖書をそのまま読んでください。

それと、Ⅱテモテ3章も読みましょう。最後の日についてのみことばが、マタイ24、25章Ⅱテモテ3章に書いてあるので、先生とレムナントといっしょに深く読んで（説明はいりません）フォーラムしましょう。

聖霊が教えてくださるので、「ああ、いま私たちが生きているこの時代が、ほんとうに終わりの日なのだ」とわかれば、それで十分です。